

A p r i r e

秋田大学広報誌「アプリーレ」

No.
74
WINTER
2022.01

| 特 集 |

各学部による 人材育成の 現状と展望





今月の表紙

今年も手形キャンパス藤棚周辺で、イルミネーションを点灯しています。

●期間：令和3年12月2日～令和4年2月25日

●時間：毎日16:00～21:00

冬の夜を華やかに明るく照らすイルミネーションの光を、ぜひご覧ください。

写真は、写真部兼学生広報スタッフの杉山達央さんに撮影いただきました。

(広報課)

読者アンケートのお願い

～お声をお聞かせください～

秋田大学広報誌「アプリーレ」は、受験生や高校生、地域の方に向け情報発信の一環として、年4回発行しています。皆さまのご意見をいただき、より役立つ誌面づくりを目指します。ぜひアンケート（所要時間：3分程度）にご協力いただけますよう、お願いいたします。

また、アンケートにご協力いただき、プレゼントに応募された方の中から抽選で10名の方に、横手市の農家さんの協力で学生が制作に携わった「いぶりばでい」（いぶりがっこ）をプレゼント！



抽選で
10名様に
プレゼント



▲回答はこちらから

締め切り：2022年3月31日

03 学長からのメッセージ

04 [特集]

各学部による 人材育成の 現状と展望

04 国際資源学部

○在学生／石山陽子さん

○在学生／田沼亜咲さん

○卒業生／土屋健さん

○卒業生／マララ ニュートン オジアンボさん

07 教育文化学部

○在学生／古谷周さん

○在学生／菊地菜央さん

○卒業生／鈴木公貴さん

○卒業生／佐々木里帆さん

10 医学部 医学科

○在学生／古川由梨香さん

○在学生／宮地貴士さん

○卒業生／漆畑宗介さん

○卒業生／湊隆文さん

13 医学部 保健学科

○在学生／佐藤亮太さん

○在学生／田口まりあさん

○卒業生／太田友里恵さん

○卒業生／稲垣里紗さん

16 理工学部

○在学生／今野咲彩さん

○在学生／石井旭さん

○卒業生／王徳健さん

○卒業生／佐川奈津子さん

19 学生広報スタッフ取材による 部活動・サークル紹介

20 秋田大学みらい創造基金

学長からのメッセージ

秋田大学長 山本 文雄

今回のアブリレでは、「各学部による人材育成の現状と展望」というテーマで、各学部における人材育成の目標や取組の紹介のほか、様々な分野で活躍する在学生及び卒業生について紹介させていただきます。秋田大学は、これまで「優秀な卒業生を社会へ、そして優れた研究を社会に還元する」を使命として教育研究活動を実践してまいりましたが、日本経済新聞社と日経HRが全国4850社を対象として調査を実施した「企業の人事担当者から見た採用を増やしたい大学ランキング」最新版におきまして、全国約800の国公私立大学中、第7位にランクしました。なお、本調査の2018年版では全国第1位に選ばれており、これまでの本学の取組が評価いただいた結果と捉え、これからも教育研究の両面で貢献してまいる所存であります。

本学の人材育成に関して、学

生の成長を促すため特に注力していることが3つあります。

1つ目は英語力の向上です。インターネット等情報通信技術の発展により、国や地域等の地理的な境界や枠組みを超えたグローバル化が急速に進展しており、国際的な感覚に加え語学力を向上させることが必要不可欠となっております。本学では、このような社会情勢において活躍できる人材を育成するため、全学生の英語力を向上させる取組を行っております。特に、国際資源学部では、ヨーロッパやアフリカ、中央アジア等世界的な教育研究ネットワークを構築しているため、入学時から卒業時まで徹底的に英語教育を行っており、卒業後の進路としてグローバル企業へ就職する多くの学生を輩出しております。他の学部においても、各学部で養う専門性に加え、英語力を基礎から国際社会で通用するレベルにまで育成するため、

独自の履修プログラムを設定して英語教育を行っております。

2つ目はSociety5.0(超スマート社会)への対応です。ICT技術の発展により社会は劇的に変化しております。今後、社会や経済の構造が大きく変化すると予想されておりますが、同時に必要とされる人材も変わっていくことが考えられることから、新しい社会へ十分に順応できる学生を輩出することが喫緊の課題と考え、各学部においてこの10年の未来を見据えた学生教育を開始しております。多様な価値観が融合する時代の変化に対応しながら、社会課題の解決と新たな価値の創造を目指すSociety5.0の時代にあつては、文理を問わず創造的な人材が必要と考え、2020年度から数理・データサイエンス・AI教育の教養基礎教育を全学展開するなど、数理データサイエンス教育の充実を図っているところです。

3つ目は人間力の向上です。2021年度から教養基礎科目に道徳教育を開講しました。社会で起きている様々な悲しい事件を見ておりますと、人間力の大切さを痛感します。特にコロナ禍で、その必要性を強く感

じました。秋田大学は附属病院を抱えており、県内各所の病院で診療援助をしているため、医学部でクラスターが発生すれば、県全域の医療に影響が及びます。学生は医学の知識を習得するだけでなく、医者としての人間性が問われます。それは他の学部も同様であり、学生は各分野の専門家である前に、豊かな人間力を身につけなければなりません。道徳教育は前近代的と思われるかもしれませんが、それが教育の原点であると考えております。もちろん専門分野における優秀さも大切ですが、人間の評価はそれだけではありません。秋田大学は、これからも豊かな人間力を備えた人材を輩出してまいります。

この4月から始まる第4期中期目標期間においては、

Society5.0を見据えたICT、データサイエンスがキーワードとなりますが、不確実な未来に向けて、自信を持って羽ばたいていける人材の育成が社会から最も求められているものと認識しております。これからも「優秀な卒業生を社会へ、そして優れた研究を社会に還元する」大学として、存在感をより一層高めていくよう邁進していく所存ですので、引き続き、皆様からの温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

各学部による人材育成の現状と展望

各学部の特色や昨今の社会的状況等を考慮したこれからの人材育成の展望、およびこれまでの成果として、現在活躍している在学生及び卒業生をご紹介します。

国際資源学部における 人材育成の現状と展望

国際性と資源とは切り離せない関係にあります。なぜなら日本国内で生産される資源は非常に限られているため、重要な資源のほとんどを海外に頼らなくてはならず、資源を扱うことは必然的に国際性が求められるからです。

国際資源学部はエネルギーや金属といった社会経済を根底から支える地下資源にフォーカスした教育研究を行っている日本で唯一の学部です。再生可能エネルギーや地球温暖化問題も資源に関連した地球規模での課題です。本学部は、単に国際性を掲げるのではなく、資源という専門性を通じて国際性を身につけられる点に特徴があります。学位授与

方針では、資源問題の解決のため、地球的視点から多角的なものごとをとらえ、国際的に活躍できる知識・技術を身につけた人材を輩出することを第一の目標としています。

そのような人材を育てるために特別に工夫されたカリキュラムが用意されています。例えば、英語による専門科目の授業や海外資源フィールドワーク(写真1)です。それらは実用的な英語能力やフィールド調査能力の向上、プレゼンテーションでの発信力の強化と積極性の養成などを目指して、国際資源の名に相応しい実践的な教育内容を提供しています。一方で、高校卒業までに資源に関わる学習や経験をする学生は

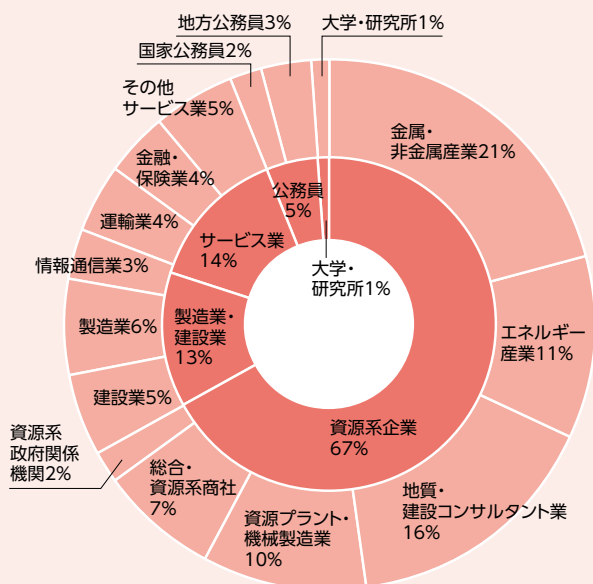
まれです。新入生の半数以上は資源よりも国際に惹かれて入学してきます。しかし1年次から秋田県内の資源に関連する施設を見学する資源学実習などから始まり、専門科目は資源に関する地質学、工学、人文社会科学の文理融合型カリキュラムを通じて、学年が上がるにつれて多くの学生が資源に興味を持つようになります。

最後に、卒業生の進路について説明します。就職率は毎年、全3コースではほぼ100%を達成しています。図1に示すように、最近3年間の学部・大学院卒を合わせた主な就職先は、エネルギー産業、金属産業、商社、電力・ガスなど資源を供給する企業や、地質・建設コンサルタントなど広く地球に関連する企業への就職が全体の3分の2を占めています。

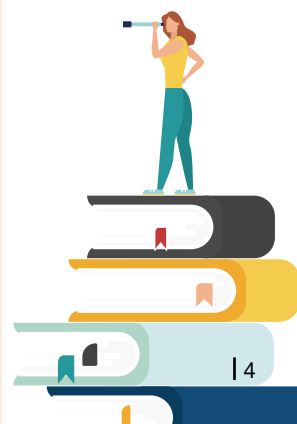
います。国際資源学部の卒業生は、それら資源系企業への就職が有利であると言えます。また、就職先の所在地では東京に本社がある企業が60%を占めています。これは卒業生が、日本のみならず世界で活動する資源系企業に就職し、資源開発の現場や資源の取引、地質調査などの現場で活躍していることと関連しています。



(写真1) 海外鉱山の巨大なダンプトラックとの一コマ(セルビア共和国)



(図1) 卒業生の就職先産業分野





石山 陽子さん

大学院国際資源学研究科
博士前期課程 資源開発環境学専攻2年

国際資源学部資源開発環境コースで学んだのち大学院資源開発環境学専攻に進学しました。私は本学部で「資源」をキーワードとして広がる様々な学問分野の基礎知識・興味関心を得ることができました。学部の特徴である文理融合のカリキュラムでは、所属する工学系の開発コースに加えて、文系の政策コースと理学系の地球コースの講義も履修可能です。分野にとらわれず多種多様な観点から資源・環境分野を包括的に理解できたことで、専門とする環境分野に加えてエネルギーや国際協力など多様な分野を学びたいと思うようになりました。

また、資源や資源国を身近に感じられる環境で過ごしたことも私にとって有意義でした。学部には様々な資源国から集まった留学生が在籍しています。彼らから「資源国のナマの

声」を聞き、議論を行ったことは、資源を学ぶ上で何より良い経験になりました。さらに、3年次の海外資源フィールドワークでは欧州最大級の銅鉱山が操業されているセルビア共和国において鉱害発生地域を訪問し、河川の水質調査実習を通じてセルビア人研究者・学生と交流する機会を得ました。資源に関わる人々との交流は大学で学んだ内容に現実味や緊迫感を与え、私が研究活動や英語力強化に取り組む際の強い動機となりました。

私は将来研究職に就くことを志望しています。国際資源学部で身につけた広い視野を失わず、物事を多角的に判断できる人材になりたいと思っています。



海外資源FWで訪れたドナウ河での水質調査風景

在学生からのメッセージ

いま現在、秋田大学で
勉学に励んでいる学生からの
リアルな声をお届けします！



田沼 亜咲さん

国際資源学部 資源地球科学コース3年

私は今、金属や非金属資源、エネルギー資源がどのように形成されるのか堆積学、岩石学、鉱物学、鉱床学などの幅広い分野から学んでいます。資源地球科学コースでは、地質調査の技術を身に付けるために秋田県内を中心に数多くの野外実習が行われます。私も進級論文作成のため、この夏約1か月かけて男鹿半島で地質調査を行いました。山や川の中を歩き、露頭から岩石の試料を採取してそれが何でありどのようにしてできたか調べました。地質調査では、チームワークが欠かせないため協調性や大変な苦勞を感じる状況でも最後まで調査をやり抜く忍耐力が身に付きました。また、専門知識も一段と増えました。地質調査が終了した後は海外資源フィールドワークが行われました。私はフィンランドとオーストラリアのコースに参加し、地球化学などの分野

から資源開発について学びました。今年の海外資源フィールドワークもコロナの影響でオンライン開催でしたが、普段大学で受ける講義とは異なり、参加している間は自分も海外の資源現場にいるようなとても新鮮な気持ちでした。

国際資源学部では、資源について文理問わず多くの方面から実践的に学ぶことができます。また、充実した英語学習や多くの留学生と交流できることも魅力の一つだと感じています。学習では大変なこともあります。貴重な経験を通して学問的にも人間的にも得られるものがたくさんあり、卒業後の人生に必ず活きてくると思います。



野外実習中



土屋 健さん

大学院国際資源学研究科 博士前期課程
資源開発環境学専攻(平成29年度修了)
アブダビ石油株式会社勤務

A1. 2020年からアブダビ石油株式会社アブダビ鉱業所にて、油層エンジニアとして勤務しています。実際の業務としては石油の生産井での作業計画の作成、実作業の監督などの業務を行っています。その他、油層エンジニアの業務としてはシミュレーションソフトウェアを用いた生産量の予測なども行います。

A2. 国際資源学部の教職員の方の中には実際に石油開発業界で働いていた方も多く、授業などを通して石油開発業界について聞く機会が多くあるので、次第に石油開発のダイナミックさに惹かれて現在の分野を志望するようになりました。

A3. 研究室では油層シミュレーションソフトを使用し、千葉県の水溶性天然ガスに関する研究を行っていました。授業や研究で学んだ内容は日々の業務で使用するので、大学での学びは日々の業務に役立っています。また、国際資源学部には中東、アフリカなど様々な国の留学生がおり、彼らとの交流を通して他国の文化についても学べたので、多くの国籍の人がいるアブダビで仕事・生活していく上でとても役立っています。



ADIPEC(アブダビ国際石油展示会・会議)へ参加

A4. 秋田大学には海外インターンシップなど特色ある授業が多くあり、資源学の基礎だけでなく実際に現場に行けるのが、秋田大学のメリットだと思っています。実際に見ることで講義ではわからないことも学べるので、資源・地下に興味のある皆さんはぜひ秋田大学を目指してみてください!

卒業生からのメッセージ

Q&A

- Q1. 今のお仕事について教えてください。
- Q2. 本学での学部を経て、現在の分野に進もうと思った動機
- Q3. 秋田大学での学びが、現在どのように生かされていますか。
- Q4. 秋田大学を目指す高校生にメッセージをお願いします。



マララ ニュートン オジアンボ
Malala Newton Ojiamboさん

大学院国際資源学研究科
博士後期課程資源学専攻(令和2年度修了)
株式会社Loop勤務

A1. 私は株式会社ループの工学部門で働いています。ここでは太陽光発電所を建設し、電力を販売しています。私の仕事は、特定の太陽光発電所に最適なソーラーパネルの数など、太陽光発電所の建設の様々な側面について、建設部門や他の顧客にアドバイスすることです。また、発電所を建設する前に、発電量を推定するためのシミュレーションを行っています。

A2. 私は10代の頃から再生可能エネルギー業界に興味を持っていました。主に電気のない環境で育ち、25歳になるまで家には電気がきていませんでした。この経験が、再生可能エネルギー業界に携わり、母国ケニアで太陽エネルギーを広めることの動機付けとなりました。

A3. 秋田大学で得た経験と知識は、現在の仕事に非常に役立っています。国籍の異なる学生との交流は、私が現在仕事で応用している異文化コミュニケーションスキルを育むのに役立ちました。また、大学で行った活動は、私の日本文化への理解を深めました。さらに、秋田大学で得た優れた研究訓練のおかげで、自分の仕事を自主的に遂行し、新しい職場環境に適応することができ、自己管理・仕事の進め方、協力、問題解決などの基本的なスキルを身につけました。



工作中的の様子

A4. 秋田大学は、勉学以外にも、異なる国の人々と出会えたことで視野を広げられるなど、様々な環境を与えてくれます。また、国際資源学部では、研究のために様々な国を訪問し、勉強する機会もあります。

私は秋田大学を卒業し、自分の好きな分野に就職しました。秋田大学を卒業することで、希望するキャリアへの道が確実になります。秋田大学での時間を実り多いものにしてください。



原文はこちらから▲

教育文化学部における 人材育成の現状と展望

教育文化学部では、人間科学、人文科学、社会科学、自然科学、芸術やスポーツの分野など、極めて多彩な専門を学ぶことができます。多様な学問分野を「総合化」、「学際化」することによって、これまでにないものを生み出し、将来の予測不能な事態に柔軟に対処できたり、種々の専門の人たちと協働し、つなげることができたりします。人間がよりよく生きるために教育や社会、文化はどうあるべきなのか、どのような支援・ケアが必要なのかをさまざまな視点から総合的に学びます。

この多彩な学びによって、本学部は学校教員の養成と地域貢献型人材の養成を行っています。学校教育課程は幼稚園・保育所・こども園、小学校、中学校、特別支援学校等の教員の養成を行っています。全国でもトップレベルの学力を支えてきた秋田の「教育実践知」を大学での授業や教育実習を通して学んでいます。1年次から

ら子どもとふれあう体験活動を系統的に配置し、秋田で長年活躍してきた実務家教員や、附属学校園・公立学校園の現職教員からの親身な指導により、子ども理解と実践力の向上を図っています。卒業生は秋田県内外の学校園において、秋田の探究型授業の力量を発揮し、若手教師として、学校の教職員と協働し、子どもたちとともに成長する喜びを日々実感しながら実践力を伸ばし続けています。

地域文化学科は、地方自治体の公務員や企業で働く会社員など、地域に貢献する人材を養成しています。世界的にも少子高齢化が最も早く進んでいる秋田は、地域振興を考える上で最先端の事例となっていて、秋田以外の地方にとっても有益な教材となります。地方が抱える課題を教材にしながら、理論と実践、調査、フィールドワークなどを通じて、総合的な視野から地域の再生と創造、そこに暮らす人々の文

化の豊かさや心理的な健康を支える力量を培います。卒業生は公務員や会社員として、大学で得た幅広い知識教養を踏まえながら、様々な人々とコミュニケーションを取り、人々のニーズや状況を

的確に把握し、対応する力を發揮して活躍しています。学校教員の養成、地域貢献型人材の養成、ともにこれからはSociety5.0に対応した情報活用能力が求められ、また国際的な

視野とコミュニケーション力が求められます。SDGsの達成に向けて、学校と地域が協働し、お互いに発展を図れるように、必要な資質・能力の育成を目指していきます。



学校教育課程での教育実習の様子



地域文化学科でのフィールドワークの様子



古谷 周さん

教育文化学部
学校教育課程 教育実践コース3年

私が所属する教育文化学部学校教育課程は、小学校・中学校・高校・特別支援学校・幼稚園・保育所の教員の養成を主としています。様々な活動を通して、教職に関する知識と技能を身に付けます。

その中でも特に私が身についたと感じることは授業実践力です。学校教育過程では教育法規や学校経営といった基礎教育科目に加え、それぞれの専門教科の教育学の講義を受講し、模擬授業を実施します。模擬授業とは指導案を作成し、大学生を対象に授業を行う活動です。子どもにどのように声をかけるか、どのように授業を展開していくのかといった、座学だけでは得られない実践的な経験を積むことができます。また、生徒役として参加していた人から率直な意見を貰い、互いに高め合いながら、実践知を身に付けています。

2年次から行う教育実習も教育現場に則した実践力を高める機会となりました。子どもの反応は発達段階ごと、学級ごとに大きく異なります。子どもの実態に合わせて授業を構成することで、さらに実践的な指導力を身に付けることができました。また、指導教員の先生から現場に則した指導案と授業の助言をいただき、より深い学びを得ることができるとともに、教育現場で働く魅力を肌で感じることができます。

このように秋田大学は教員養成の上で有意義なカリキュラムがいくつも設定されています。教職を志す人にとって充実した活動ができる環境と言えるのではないのでしょうか。



模擬授業の様子

在学生からのメッセージ

いま現在、秋田大学で
勉学に励んでいる学生からの
リアルな声をお届けします！



菊地 菜央さん

教育文化学部
地域文化学科 地域社会コース4年

現在、私は地元の地域において、マーケティング分野の観光地ロイヤリティという視点から地域活性化を促進できないかと研究を進めています。学科では経済学や経営学、マーケティングなどを体系的に学んできました。自分の興味のある分野だけでなく、それぞれの学生の将来像に合わせて必要なスキルや知識をつけるための単位取得モデルもあり、学業を進める上で大きなサポートを感じました。座学以外にも、県内の発酵文化を調べることから始まり、フードロス削減を目的として横手市の若手生産者グループの方々と販売戦略・経営戦略をたてたり、大仙市広報広聴課さんと協力して大仙の酒蔵に取材を行いメディアを通して国内外に発信したりと、いくつもの実習を経験することができました。

実習やフィールドワークの多さはこの学科の魅力のひとつ

つで、学外の方々や実習先の方との共同作業になるため、座学よりもより主体的に活動する場面が多くなります。私は実習を通して、初対面・歳の離れた学外の方々とのコミュニケーション能力や、課題をどのように解決するかを考える思考力・柔軟性、活動を着々と進めていく実行力などが身に付いたと感じています。

地域文化学科はビジネスに関わるだけでなく、芸術、語学、文化など幅広く物事を学ぶことができ、これまで知らなかった分野に出会える場所です。ぜひ、入学して充実した学生生活を送りましょう！



ゼミでの活動の様子



鈴木 公貴さん

大学院教育学研究科
教育実践専攻(教職大学院)
(令和元年度修了)
秋田県立能代高等学校勤務

A1. 秋田県立能代高等学校で国語科の教諭として勤務しています。教員生活2年目を迎え、今年度から初めて2年生の学級担任を務めています。反省ばかりの毎日ですが、言葉の力が付く国語の授業を追究し、生徒の将来を共に考える時間は、かけがえのない財産です。国語の授業と担任業務以外にも校内の様々な業務に携わり、部活動の指導にもあたっています。

A2. 大きく2つあります。1つ目は、1・2年生の春休みに訪れたカンボジアで過ごした時間です。秋田市出身のフォトジャーナリストである高橋智史さんに案内をしていただきスタディツアーに参加し、困難な環境でも熱心に学ぶ子どもたちと出会い、教育がもつ力の大きさと社会に与える影響を

肌身で感じ取りました。2つ目は、小学校と中学校で過ごした教育実習です。人としての根幹に携わることができるのが小・中学校の大きな魅力だと感じた上で、生徒が人生の方向性を決める段階に深く関わりたいと思うようになり、高校の教員を志望するようになりました。

A3. 日頃の授業は勿論のこと、学級経営や生徒指導、小・中学校と大学との連携など多くの面に繋がっています。また、教育文化学部から教職大学院に進学したことで、理論と実践の両面に対して理解を深められました。学部と大学院で学んだことのすべてが今に繋がっていると感じています。

A4. 教育文化学部の強みは「学びの多様性」だと思っています。親身になって接して下さる先生方の下で、広い学問領域を学び尽くすることができる環境です。学校の教員だけでなく、様々な分野で活躍するための教養を身に着ける時間を過ごすことができます。ぜひ教育文化学部で充実した学生生活を過ごしてください。



授業の様子

Q&A

卒業生からのメッセージ

- Q1. 今のお仕事について教えてください。
- Q2. 本学での学部を経て、現在の分野に進もうと思った動機
- Q3. 秋田大学での学びが、現在どのように生かされていますか。
- Q4. 秋田大学を目指す高校生にメッセージをお願いします。



佐々木 里帆さん

教育文化学部 地域科学課程
(平成28年度卒業)
株式会社エフエム秋田勤務
mix(毎週月～木15:00～17:55) 火曜news mix担当 他

A1. ラジオ局でアナウンサーとディレクターをしています。生放送でニュースを読んだり、フリートークをしたり。機材を持ってインタビューに行くこともあります。また、番組制作や生放送の進行管理もしています。

A2. 一番の動機は新聞サークルでの活動ですが、学部での学びも進路選択に影響を与えてくれました。

大学時代は法学や社会学、哲学などの授業を専攻していました。社会の決まりごとである法律を知る一方で、社会学や哲学のような目から鱗だらけの考え方に触れたことで「もっと人の話を聞いてみたい」「知らないことを誰かに伝える仕事がしたい」という気持ちが強まりました。

A3. 当時の新聞サークルは、記事の構成、発行・配布、予算の工面まで、すべて自分たちで行っていました。原稿の作成といった実務から、情報を伝えることへの意識



といった気持ちの部分まで、今の仕事のベースはここから生まれたものだと思います。

また、授業の課題に取り組む中で、情報の根拠を明確にすること、複数の資料から様々な視点を取り入れる習慣も身につきました。

A4. 私自身もともと進学の手配はなく、秋田大学を目指したのは高校二年生の冬からでした。実業高校からの進学で大学受験は勉強面で苦戦しましたが、大学で学んだことは今でもとても大切な財産です。

大学には医学や語学、様々な分野で、すべての学部の学生が受講できる授業もたくさんあります。ぜひ選んだ学部以外の世界ものぞいて、どんどん知識を付けてください!

医学部医学科における 人材育成の現状と展望

秋田大学医学部医学科では、地域の医療を支える医師の育成を積極的に推進すること、先端的で特色ある基礎医学研究を推進すること、次世代の医療・医学を担う人材を育成することを目標に掲げています。

医学科を卒業し医師免許を取得すると臨床研修が始まりますが、例年は卒業生の半数程

度が大学病院を含む秋田県内の病院で研修を行います。秋田大学では、卒業前と卒業後を通じて一貫した医学教育を受けることで総合的な臨床能力を有する医師として成長することを目指しています。そのため卒業後も大学病院と地域の病院が協力する体制の中で臨床研修を行うことができます。もちろん県外の



研究発表を行っている様子



ロボット手術を学んでいる様子

病院で研修する人もいます。その後、各専門科に分かれ、大学病院や地域の基幹病院で引き続き研修を積んでいきます。卒後5年目を過ぎる頃から臨床医としての道に加えて、研究や医療行政などの分野に進む人たちも出てきます。また、米国の医師免許資格ECFMGの試験に合格すると海外でも活躍することもできます。例えば、ある卒業生の方は外科研修、大学院の後に海外の総合病院に留学し肝臓移植の基礎研究に取り組み、さらに同地で移植外科医として活躍しています。また、医学生、若手医師向けの進路選択支援に関する本を執筆するなど情報発信も活発に行っており注目を集めています。

研究では、秋田大学では免疫、がん、代謝、循環器などの分野を中心として先端的な基礎研究が活発に進められています。医学生の中には研究室で実験を行い目覚ましい成果を上げる人もいますが、卒業後にそのまま研究の道に進むことはほとんどありません。多くは臨床研修が終わった頃から大学院生として研究に従事します。例えば、放射線科医として活躍する一方で画期的なMRIを活用した新たながん診断法を開発し注目を集めている卒業生もいます。また、医療行政と関連して、内科の開業医として地域医療に貢献しながら、医師会や日本全体の医療行政や経済などに関わる仕事で活躍されている卒業生もいます。

医療活動と文化、スポーツ活動など二足の草鞋を履いている医師もいます。古くは、「鉄腕アトム」や「ブラックジャック」を描いた漫画家の手塚治虫は医師でもあったことがよく知られています。秋田大学の卒業生でも、芥川賞作家の南木佳士さんは本学医学部を卒業後、病院勤務をしながら小説を執筆していました。ご自身の医学生時代の経験をもとにした「医学生」はいつの時代も悩める若き医学生にとって良い道標となっています。また、スポーツの分野では、ごく最近卒業した卒業生で、医学生として勉学に勤しみながら、陸上の中距離走の選手として東京オリンピックを目指していました。卒業して医師免許を取得した現在もクラブに所属して次のパリでのオリンピック出場を目指して頑張っています。

このように秋田大学の医学部医学科を卒業した後には医師としてだけでなく幅広い活躍の可能性がありますし、医学以外のさまざまな分野でも活躍することができます。医学への高い志を持つ高校生の皆さんが秋田大学に来てくれることを願っています。



超音波検査を学んでいる様子



古川 由梨香さん
医学部 医学科5年

私は現在5年生で、臨床実習を行っています。実習では、担当の患者さんに毎日お話を伺いにいたり、診察や検査、治療と一緒に参加させていただいたりします。教科書ではさらっと書かれているように思えた検査や治療も、実際に見てみると、いかに高度な技術が必要で入念に準備がされているのか、また、それに臨む患者さんの不安や覚悟はどれほどかなのかを体感し、日々初めての経験の連続です。座学だけではわからなかったことを学べる面白さと、将来医療に携わる責任の重みを感じます。コロナ禍



でも貴重な実習の機会を頂けることに感謝しながら、一生懸命学びたいと思っています。

また、課外活動としては、室内合奏団などのサークルに所属したり、形態解析学講座の先生方にご指導いただきながら研究活動をしたりしています。学内外での活動を通じて得た仲間や経験はかけがえのないものですし、行動の幅もぐっと広がりました。

入学当初は、初めて来た土地で知り合いも誰もおらず、大学生活に対して不安でいっぱいでした。しかし、先生方や友人と出会い、これまでの様々な経験を通して、今までは知り得なかった面白い分野、世界がたくさんあることを学び、非常に充実した学生生活を送っています。地元の方にも温かく受け入れていただき、落ち着いて自分の興味のあることにのびのびと挑戦させてもらえる環境は、とても恵まれているなと感じます。皆さんと大学でお会いするのを楽しみにしています！



在学生からのメッセージ

いま現在、秋田大学で勉学に励んでいる学生からのリアルな声をお届けします！



宮地 貴士さん
医学部 医学科6年

私は病気の予防もできる医師を目指して医学部に入学しました。大学では公衆衛生学講座の野村恭子先生の指導の下、秋田県におけるトラック事故の予防を目的とした活動に取り組んでいます。運転手さんたちがどのような問題を抱え、それが事故と関わっているのか、というテーマで、実際に取材した記録や会社からの事故や勤務状況に関する情報を分析し、講演会を通じてフィードバックしています。秋田での活動が、世界のどこかで同じような問題に取り組んでいる人たちの参考になるように、英語論文として記録することも大事にしています。学生時代から自分の目標とする医師像を目指して試行錯誤できるのは、そのような機会を惜しみなく用意してくれる先生方と大学を信頼して協力してくれる事業所や運転手の方々のおかげです。

この活動を通じて私は、相手が何に困っていて、どうすれば自分がそれに応えることができるのかを常に意識するようになりました。私が一方的に問題だと思ったことが、必ずしもその人にとって重要ではなかったからです。今後、臨床の現場に立った時、医師として病気の予防や治療を患者さんに押し付けるのではなく、その人の目線で見たときに何が問題になっているのか、という点を深く考えていきたいと思っています。





漆畑 宗介さん
医学部 医学科(平成26年度卒業)
湖東厚生病院勤務

A1. 八郎潟町にある湖東厚生病院で働いています。総合診療医です。

A3. 在学中MedicAというサークルでがん患者さんの集まるサロンにお邪魔していました。仲良くなった患者さんのご自宅にお邪魔してご飯を頂く事もありました。患者さんの人となりを知り、暮らしを感じる経験から地域医療に興味を持ち、総合診療に出会いました。卒業後、都内で勉強し専門医を取得しました。今年度から秋田に戻って来ましたが、学生時代からお世話になっている先生に誘っていただき、総合診療を目指す後輩の育成をお手伝いさせてもらっています。特に地域に興味があるのでコミュニティドクターを名乗り、病院からまちに出て住民の健康をサポートしています。地域

のサロンにお邪魔してお喋りしながら健康相談に乗ったりしています。最近は町の朝市に出店したりもしています。興味のある方はぜひ遊びに来てください。

A4. 私は県外の出身です。入学前は秋田というと課題先進県という暗いイメージもありましたが、来てみて沢山の魅力に気づきました。ぜひキャンパス内、秋田市内にとどまらず、広い秋田県を存分に楽しんでもらえたらと思います。そして総合診療の面白さは地域にこそあると私は思います。ぜひ一緒に地域にどっぷり浸りながら患者さんの病気だけでなく、暮らしや家族、地域にまで目を向けてみましょう。秋田でみなさんをお待ちしています。



医学生と五城目町を回った時の写真。※地域の見方をレクチャーして実際に街の中をフィールドワーク、その後街の中の施設で振り返りをしている時の様子

Q&A

卒業生からのメッセージ

- Q1. 今のお仕事について教えてください。
Q2. 本学での学部を経て、現在の分野に進もうと思った動機
Q3. 秋田大学での学びが、現在どのように生かされていますか。
Q4. 秋田大学を目指す高校生にメッセージをお願いします。



湊 隆文さん
医学部 医学科(令和2年度卒業)
東京大学医学部附属病院勤務

A1. 私は現在東京の病院で初期研修医1年目として勤務しています。私の研修病院は、全国から志の高い優秀な研修医が集まっており、そういった人達から常に良い刺激を受けられる環境で充実した研修を行っています。

A2. 私が医学科を志した理由は、今の医療では中々介入が難しいとされている疾患で困っている患者さん、ご家族が少しでも生きやすい世の中にできればと思っていたからです。大学時代を経てその思いがより一層強まったと感じています。将来の目標として、医療者であると共に今の医学では解決が難しい問題に少しでも力になればと思っています。

A3. 私は大学時代、第一生化学の久場先生の研究室で研

究活動を行っていました。携わったプロジェクトとしては、高血圧や心不全だけでなくCOVID-19肺炎の治療にも期待されるB38-CAPについての研究や、mRNAの転写・翻訳に重要なCCR4-NOT複合体というタンパク質複合体についての研究です。現在も、私は研修医を行いながら、研究活動を行っています。研修医と研究の両立はかなりハードですが、大学時代に病院の臨床実習を行いながら論文の校正の為に大量の追加実験を行っていた時の経験を活かして両立させています。そういった、臨床も研究も頑張るという姿勢は大学時代に得た経験が大変生かされていると感じています。

A4. 秋田大学は医学教育が素晴らしい大学です。他大学と比べると留年率はかなり低く、全国でも上位になるような高い医師国家試験合格率がそれを示していると思います。皆さんの無限の可能性を更に広げてくれる秋田大学でぜひ素敵な学生生活を送ってください!



勤務終了後、研修室で勉強している様子

医学部保健学科における 人材育成の現状と展望

医学部保健学科では左記の6つの卒業要件を挙げ人材育成を実施しています。

①豊かな人間性や教養と倫理性
柔軟で豊かな人間性や高い教養を有し、医療に携わるものとしての倫理を遵守できる能力がある。

②コミュニケーション能力

医療、保健、福祉チームの一員として強調して行動し、患者障害のある人々、それらの家族などを理解し、良好な関係を構築できる能力がある。

③確かな知識と技能

専門的知識や技術を修得し、基本的な医療行為を安全に実施することができる能力がある。

④向上心と適応性

進歩し続ける医学や医療に興味を持ち学習し、生涯にわたる自らを高め、その成果を取り入

れることができる能力がある。

⑤課題探求と問題解決能力

課題を自ら探求し、科学的な評価と検討の基、その問題解決のために努力することができる能力がある。

⑥貢献できる能力

患者、障害のある人々の回復や、地域住民の健康維持や増進、国際社会での医療・保健活動などを支援し貢献することができる能力がある。

卒業してからの先を見据えた教育、卒業してからも学び続ける力をつけることを目標に、教育を実施しています。

前記の能力を育成するための具体例です。現在はチーム医療の時代です。保健学科には看護学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻があります。隣には医学科があり、学生時代から共に学び多職種連携で学修してい

ます。また、特定機能病院での臨床実習も実施しています。医学部附属病院の実習では、最先端の医療に触れることができます。地域の要となる病院で地域医療について深く学ぶことができ、地域で学び地域に還元することを目標に実施しています。演習や実習においては最新のシミュレータを活用しています。知

識を増やすためには積極的にICTの利用もしています。なお、グローバルな視野の育成にも力を注いでおり、その一つにタイ王国、シンガポール、オーストラリアなどの大学で短期海外研修を実施しています。先方の大学が秋田に来るなど交流を深めています。秋田県は世界一高齢化社会です。この社会で得られた知

見をグローバルな視野で発信し、還元できる様に努めています。多くの卒業生が専門職として各医療現場や地域で活躍しています。海外で学び活躍している者や、大学院へ進学し研究を実践している者も少なくありません。皆さん、一緒に学び成長してみませんか。



シミュレータを用いた聴診の学習



基礎作業学実習で鯉のぼり作成場面



義肢装具装着の演習



佐藤 亮太さん
医学部 保健学科 看護学専攻4年

私は災害医療を学ぶ学生団体である日本災害医学会学生部会(DMAS)に所属し、活動を行ってきました。主な活動としては、学生が主体となって運営する研修会や、災害医療を専門とする講師による講義や演習への参加、また日本DMAS災害時対応チームとしての災害時支援活動などです。

私はDMASに所属したことで、2つの面で成長できたと感じています。

1つ目は「教科書には無い実際の目線で災害について考えを深められた」ということです。これまでに阪神淡路大震災の発災時に当直医をしていた医師の講義や、ダイヤモンド・プリンセス号でCOVID-19の初期対応を行ったDMAT隊員の話聞いたことがあります。教科書通りにはいかない災害対応の難しさや、同時多発的な救えない命へ向き合っ

た時の重く辛い経験を聞き、将来遭遇しうる「自分ごと」として、災害時の考えを深めることができました。

2つ目は「全国の成長できる仲間と出逢えた」ということです。DMASは全国に会員がいます。私は東北支部で活動したため、東北大学や東北医科薬科大学等に赴き、東北各地の仲間と共に学び合うことができました。また、年一回の全国学生フォーラムでは神戸に行き、全国の多くの仲間と考えを共有し学び合うことができました。

私はこれらの活動を通して多くの人と出逢い多くのことを教えていただきました。これからも多くの人と出逢い、学びを深めつつ、今度は今までに得た学びと経験を伝える側にもなっていきたいと考えています。



東北大学病院で行ったワークショップ

在校生からのメッセージ

いま現在、秋田大学で勉学に励んでいる学生からのリアルな声をお届けします！



田口 まりあさん
医学部 保健学科 看護学専攻4年

秋田県の自殺率が他の都道府県と比較して高い状況にあることをご存じでしょうか。また年代別では高齢者が多くを占めており、高齢化が進む本県における課題となっています。

私は、秋田大学自殺予防総合研究センターのSNSを活用した高齢者支援事業である「おたがいさまのつながり事業」に参加させていただきました。この事業ではZoomを使用した地域の高齢者と学生の交流が行われています。週3回、1回30分の交流をするなかで、お互いの生活や悩み事など、様々なことを話しました。

高齢者の方と日常的な関わりをもつことができたことは、私自身にとっても良い機会となりました。円滑なコミュニケーションをとる良い練習となり、卒後看護師として勤務するうえで必要な技術を身につけることができたと思います。

また、コロナ禍ということもあり、病棟実習で接する患者さんのほかに、地域で生活をされている高齢者の方との交流はありませんでした。このような機会があったことで地域で療養されている方の話を伺うことができ、医療機関で働く中でも患者さんの退院後の生活を見据えた看護の大切さを改めて感じました。

高校生の皆さんは大学生活に期待を膨らませていることと思います。ぜひ秋田大学で看護学を学び、さらにこのような事業に参加することで視野を広げていただきたいと思います。



ipadの使い方を練習中



太田 友里恵さん

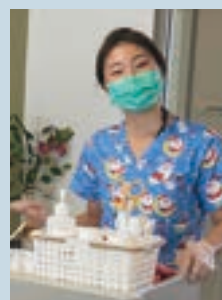
医学部 保健学科(平成27年度卒業)
The Salvation Army Australia勤務

A1. 私は卒業後、東京の急性期病院で勤務し、オーストラリアでの看護師を目指すべく2年ほど前からオーストラリア、シドニーで生活しています。現在は「アシスタントナース」として勤務し、正看護師登録を目指しています。

A3. 大学在学中の頃から漠然と海外に興味があり、ブータンへの夏季短期留学や海外旅行を経験しました。一人ひとり違った背景があることを念頭に置きながら相手と接する大切さを学びました。また国の保健情勢や教育方針により、学生ながらスタッフの卵として夜勤がある事が衝撃的でした。就職は急性期看護をしながら外国人患者にも多く関わられる病院を選択しました。急性期看護の難しさや忙しさを痛感しましたが、同期や先輩と協力し、病棟の力になるべく働

いていました。職場にも徐々に慣れ、自分の漠然とした夢であった「海外」と自分のスキルを活かして生活する道を模索し始め、留学会社やサークルなどで情報収集をし、渡豪しました。看護職については、日本よりも業務内容が細分化されている事、仕事とプライベートの区別がしっかりされている事が特徴だと思います。シドニーは特にマルチカルチャーなので、英語も様々なアクセント・表現があり、私生活でも新しい発見や勉強の連続です。コロナで日本に一度も帰国できず、毎日困難の連続ですが、それでも今のチャレンジに悔いはありません。ここで与えられたチャンスを掴むべく、時には文字どおり涙しながら日々奮闘しています。

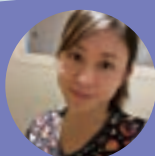
A4. 自分がチャンスを多く手にできる環境を自分で探していく力が必要だと思います。皆さんが自分の意思で決めて進んだ道ならば、チャレンジが降りかかってもきっと納得できる結果が出ると思います。ご健闘をお祈りしています。



Q&A

卒業生からのメッセージ

- Q1. 今のお仕事について教えてください。
- Q2. 本学での学部を経て、現在の分野に進もうと思った動機
- Q3. 秋田大学での学びが、現在どのように生かされていますか。
- Q4. 秋田大学を目指す高校生にメッセージをお願いします。



稲垣 里紗さん

医学部 保健学科(平成20年度卒業)
カナダ・トロント市内病院勤務

A1. 現在はトロント市内の病院のTransitional care unitと言う内科の病棟でRPN(准看護師)として働いています。高齢患者さんの多い病棟で血圧測定、与薬、点滴管理や経腸栄養といった看護ケアや清拭等の日常生活援助を行なっています。トロントは多国籍文化の都市でもあり、様々な国籍の患者さんや同僚がいます。

A2. 大学卒業後、日本で5年間看護師として、腎臓内科と消化器外科で働きました。その後、自分の進みたいキャリアや人生が明確ではなかったため、カナダへワーキングホリディに行き自分を見つめ直すことにしました。その間、少しずつ英語が話せるようになるにつれて、もう少しカナダに残りたいと思いました。また、医療系以外の仕事をし、看護師と言う仕事が好

きだと気づき、カナダで看護師を目指すことに決めました。カナダのカレッジの看護学科に通い、准看護師の資格を取得。現在は正看護師資格取得を目指しています。



A3. 現在、大学入学当初全く予想していなかったところで看護師として働いています。しかし、看護学科時代に学んだ知識や実習を通して培ったアセスメント力は、今でも臨床を行う上での基礎となっています。また、部活や学生生活を通して仲間と協力し合ってきたことは、同僚や職種間と働く上で生かされています。

A4. 大学進学や何学部に進むかと言うのは人生の中で大きな選択の一つだと思います。今勉強をしていることが今後に繋がるのか不安に思ったり、大変と覚えることもあるかもしれませんが、継続していくことで選択肢が広がったり、自分の糧になると思います。また、国際的な分野での就職を考えている方は学生の頃から英語の勉強をしておくのと良いです。勉強以外にも、やりたいことがあったら積極的に行くと良いと思います。

理工学部における 人材育成の現状と展望

理工学部では、深い専門性と幅広い視野を持った人材の育成を目標としています。具体的には、自ら課題を発見できる力、幅広い視野から柔軟かつ総合的に判断できる力、未知の分野の課題を解決できる力が育つように、丁寧な教育を行っています。

理工学部における教育は、学生と教員の距離が近いことが一つの特徴です。入学してから卒業するまで、担任や進路担当の教員などが大学生活の様々な質問・相談に応じています。2年次から始まる専門科目は工夫

されている授業が多く、専門分野の面白さを味わうことができると同時に、教員の個性も垣間見えるので楽しいと思います。3・4年次になると研究室に配属されて少人数体制になりますので、距離感は一気に縮まります。研究室の皆で一緒に飯を食べに行ったり、遊びに行ったりするうちに人間関係も深まります。



理系博士号を持つ外国人教員による英語での授業の様子：学生の語学力レベルに合わせて楽しく授業を行っています。

こうした人と人の繋がりを大切にしながら、きちんと基礎から段階的に教育を行っています。例えば、1年次では、専門分野の社会的な役割を理解して学びの動機付けを行うために、産業界の第二線で活躍している人達から「現場の声」を聞く機会を設けています。2年次では専門的な基礎知識と技術を習得するために、実験や実習を多く取り入れたカリキュラムを作り、基礎を定着させています。加えて、理系博士号を持つ外国人教員の英語による授業や、英語論文を読んで

内容を発表する授業など、理系の英語教育にも力を入れています。研究テーマは一人一人違いますので、主体的に進める力や筋道を明確にして説明する力、周囲と協力して決める力が磨かれます。卒業時には、自立した技術者としての第二步を踏み出せるまでに成長します。

卒業後は、約4割が大学院へ進学し、約6割が就職します。就職先は非常に幅広く、主に自動車や鉄道、建設、機械、電力、金属、化学、バイオ、通信、ITなどの業界で技術者や研究者として活躍しています。様々な業界へ就職できるのは、理工学部の専門分野が多岐に渡っていることでもあります。専門分野を軸にして他の分野を見渡せるまでに成長しているからとも言えます。専門教育に関する卒業生の満足度は高く、専門知識と技術、分析的に考える力、専門的な実験スキル、論理的な思考力を身に付けることができたという声を、多くの卒業生からいただいています。これからの社会では、様々な分野のコラボレーションによって新しいものや仕組みが次々と生まれるでしょう。例えば、サークルやアルバイトなどで興味を持つ



土木環境工学コース2年次「測量実習」の様子：専門技術の基礎を習得しています。

た分野へ自分の専門を活かして働くことも可能になるかもしれませんね？

理工学部には秋田県外から来た人や留学生も多いのですが、友人も作りやすく、大学生活を楽しんでいます。手形キャンパスはJR秋田駅から徒歩15分の所

にあり、秋田県内には有形・無形の遺産や観光スポットが沢山あります。キャンパス周辺は住宅街で、昼夜問わず学生が歩いているような安心して暮らせる街です。こうした落ち着いた環境で人間性も深め、社会に貢献できる人材に成長して欲しいと思います。



今野 咲彩さん

大学院理工学研究科
博士前期課程 数理・電気電子情報学専攻
数理科学コース2年

私は数理科学コースでの学びを通して、論理的に推論していく力や粘り強く考え抜く力が身についたと感じます。

高校までの数学は定理や公式を覚えて使いこなせるようになるのが目標とされてきたように思います。しかし、大学での数学は定義をしっかりと理解することや定理の意味を理解することなどが求められていたと感じます。はじめはそれに対して勉強方法が分からず、試験でも思うように点数をとることができていませんでした。しかし、先生の助言から、証明問題の演習に取り組んだり、考える対象のイメージを膨らませたりして向き合いました。

また、研究室に配属されると、週に一度セミナーが開催されます。自分で数学書を読み進めて、定理などを先生や研究室の他のメンバーの前で解説をします。数学書の証明の

中には「これは自明である。」などと書かれていることがよくあります。こういった部分に対しても、なぜそうなのか、一つ一つ確かめてから発表することが求められます。

何かを証明する時には、示したいのは何か、それを示すには何が言えれば良いのか、また条件から導けるものは何かということを特に意識します。1日では証明できないことや、なぜと問い続けて考えることもよくあります。こういった活動を通して、論理的に推論していくことや、粘り強く考えることが身についたと感じます。それらは日常生活でも自分で道を切り開いていく時の助けになっていると感じます。



卒業論文を発表している様子

在学生からのメッセージ

いま現在、秋田大学で
勉学に励んでいる学生からの
リアルな声をお届けします！



石井 旭さん

理工学部 応用化学コース4年

大学受験の勉強を頑張ってきた反動で、入学後に気を抜いてしまう人が多くいるように感じます。私も低学年の時はそのような状態もありましたが今は違います。大学生は高校生よりも自由です。分からないことは分かるまで勉強し、自分で分からないことは周りの人や先生に聞きます。当たり前のことを言っているように思いますが、私が高校生のころにできていなかったことです。各々興味を持っている分野に進んだ以上、面倒くさい、楽しみたいという気持ちを優先せず、今だからこそできることに全力で取り組むべきです。私は現在エネルギーの安定供給や、資源の有効利用に関する研究に、地元の企業と共同で取り組んでおり、実験や資料の作成、発表等様々な経験をさせてもらっています。常に今が一番忙しく、それがありがたいとも思えるようになりました。

時間の使い方が自由になるほど、与えられた時間が有限であることを思い知ります。私は何事も目的を持って行動しようと考えており、講義や研究活動、昼寝をする時にもそれが有意なものであるように心掛けています。これから大学生になる皆さんは、期待とやる気に満ちあふれている一方、今まで部活動や受験勉強に時間を縛られ、これから楽しい時間を過ごしたいと思う気持ちもあるはずですが、安心してください、勉学と楽しい生活は両立できます。私は居酒屋でのバイトで他分野の学生やお客さんと触れ、なにより生涯の趣味となる日本酒と出会いました。部活動でたまにラグビーもして楽しく過ごしています。楽しようとせず、楽しくすごそうと思えば、最高の大学生活を送れるはずです。



実験中の様子



王 徳健さん

大学院理工学研究科博士後期課程
数理・電気電子情報学専攻
(平成25年度修了)
大連民族大学(中国)勤務

A1. 私は秋田大学大学院で博士前期課程を修了後(2005年3月)、秋田県内の企業に入社し、システム開発の仕事に従事しました。2009年中国に帰国してから、大連市にある大連民族大学に務めています。大学での仕事をしながら、秋田大学大学院博士後期課程に社会人入学し、2014年に博士号を取得しました。現在、大連民族大学の教育システムを開発・管理する業務を行っています。また、ネットワークのセキュリティ技術の開発の業務にも従事しています。

A2. 私は2002年7月に中国の吉林大学を卒業後、秋田大学で留学生生活を始めました。当時、日本語が少ししかできなかった私は、研究分野を選択するとき、一番勉強したいこと、一番好きなことを考え、研究分野を決めました。私は学部

時、コンピュータ応用技術を勉強していたため、工学資源学研究科(現、理工学研究科)では「人工衛星データを用いた八郎湖の水質推定」のテーマについて、興味を持って研究を進めました。

A3. 多くの方の答えは「知識」になるかもしれませんが、私は「知識」よりも「経験や方法」のほうがもっと重要だと思います。中国の古い言葉に、「人に魚を与えるより、漁をする方法を教えたほうがよい」があります。勉強する方法や思考する方法を習得し、能力を高めれば、知識は身につきますし、どんな仕事も柔軟に担当できると思います。

A4. 秋田大学を目指す高校生の皆さん、秋田大学では、いろいろな研究分野があるだけでなく、優しい先生たち、優れた環境が整っているため、素晴らしい大学生活を過ごすことができます。是非、興味を持って、方法を習得して、自分の人生を創造しましょう。



Q&A

卒業生からのメッセージ

- Q1. 今のお仕事について教えてください。
- Q2. 本学での学部を経て、現在の分野に進もうと思った動機
- Q3. 秋田大学での学びが、現在どのように生かされていますか。
- Q4. 秋田大学を目指す高校生にメッセージをお願いします。



佐川 奈津子さん

大学院理工学研究科博士前期課程
システムデザイン工学専攻
土木環境工学コース(令和元年度修了)
日本工営株式会社勤務

A1. 建設コンサルタント/開発コンサルタントと呼ばれる土木構造物の計画・設計・施工監理を担う会社で、私は海外(発展途上国)の道路・橋梁に係る部署に所属しています。現在は、フィリピンの高速道路の設計に関するプロジェクトとネパールの道路維持管理に関するプロジェクトのメンバーとして働いています。

A2. 当時の土木環境工学コースに在籍しており、大学生活を通じて土木を学ぶ面白さを感じ、将来も土木に関する仕事に携わりたいと考えていました。また、在学中はオーストラリアへの短期留学やドイツへ交換留学に行き、海外の面白さも肌で感じました。これら2つの経験により「土木と海外」に関する仕事がしたいと考えるようになったことがきっかけです。

A3. 在学中は研究、留学やサークル活動等やりたい事を詰め込んだ充実した大学生活だったと思いますが、そのすべてが現在の生活に活かされていると感じています。土木に関する仕事をしているため、大学での講義で学んだ知識はもちろん、相手国政府関係者、現地スタッフ、再委託先とのコミュニケーションは留学で培った英語力が活かされています。

A4. 秋田大学はチャレンジしたいと思ったことに対して、十分にサポートしてもらえる環境が整っていると思います。



フィリピン渡航時の現地調査の様子

皆さんが興味を持っている分野の勉強のみならず、視野を広げ、やりたい事にチャレンジできる大学を選び、充実した大学生生活を送れることを願っています。

写真部

●理工学部・システムデザイン工学科機械工学コース3年
高橋日向子さん

写真部は現在31名(男25名・女6名)で活動しています。年3回ある写真展の計画・準備、花見や紅葉狩りの時期には風景を写真に収めながら部員の親睦を深め合う行事を企画するなど、日々精力的に活動しています。現在は2022年1月中旬に商業施設で開催する「秋田大学写真部写真展」に向けて準備を進めているそうです。近年では、部員の日ごろの成果をWEBサイトで発信する「オンライン写真展」という取り組みを新たに始めたといいます。そんな写真部の魅力は「写真経験や学年の差も関係なく、和気あいあいと活動に取り組むこと」と高橋さん。今後の目標を「美しいものや好きなものを見て感じた感動が伝わるような写真を撮りたい」と語ってくれました。



部活動・サークル紹介

空手道部

●医学部・医学科2年 大上智也さん
●教育文化学部・地域文化学科1年 伊藤綾真さん

空手道部は現在26名(男子16名、女子10名)で活動しています。練習では、1対1の対戦形式で行われる「組手」、攻撃・防御の組み合わせをまとめた演武形式の「型」などを行います。大会で結果を残すために鍛錬に励む部員もいれば、個人的なレベルアップを目指す部員もいるなど、競技の経験歴も目標も十人十色。そんな部員一人ひとりを繋ぐのが「心・技・体の成長」という部全体で掲げる目標です。「空手は個人の競技と思われがちですが、みんなで楽しんで高めあいながら活動しています」と大上さん、伊藤さんは笑顔で語ってくれました。



丁酉会は、秋田大学病院の患者、職員及び学生への便宜供与に関する事業を行うとともに、医学研究の奨励助成を行い、患者等の利便と医学振興に寄与します。

病院での生活を、もっと便利に、快適に 一般財団法人 丁酉会

てい ゆ う か い

保険調剤 丁酉会薬局

秋田大学病院前

おいしい魚を世界の海から食卓へ

丸水秋田中央水産

代表取締役社長 鈴木 信 夫

秋 田 市 外 旭 川 字 待 合 28
TEL 018-869-5311代 FAX 018-868-1931

秋田県厚生農業協同組合連合会

かづの 厚生病院 (鹿角市)	北秋田市民病院 (北秋田市)
能代厚生医療センター (能代市)	湖東厚生病院 (八郎潟町)
秋田厚生医療センター (秋田市)	由利組合総合病院 (由利本荘市)
大曲厚生医療センター (大仙市)	平鹿総合病院 (横手市)
雄勝中央病院 (湯沢市)	

JA秋田厚生連 検索

～トヨタ自動車100%出資企業～

株式会社 協豊製作所

未来をともに ゆたかに
Together Toward a Brighter Future

ホームページ

愛知県豊田市トヨタ町6番地

口座残高も。
入出金明細も。
スマホでいつでも
確認できる。

秋田銀行 | **あきぎんアプリ**

次代を担う秋大生の
学びを応援します

北都銀行

秋田大学みらい創造基金

「秋田大学みらい創造基金」は、全学的な事業を支援する「一般基金」と、用途を特定した「特定基金」で構成され、現在、企業・団体や個人の皆様など多くの方々にご支援をいただいております。この基金は、教育・研究による社会への貢献という本学の使命を果たすための大きな支えとなっており、今後一層の拡充を図りながら、有効に活用させていただきます。

みらい創造基金による事業紹介

学業奨励金表彰(一般基金)

令和2年度秋田大学学生表彰(学業奨励金)表彰式を行い、成績優秀者として15名の学生を表彰しました。この学生表彰は、本学で前年度の成績優秀者かつ人物的に優れた者を各学部長が推薦し、学長が表彰するもので、被表彰学生には学業奨励金として一人10万円を給付しています。



表彰式の様子

附属病院の備品購入(病院寄附金)

附属病院各診療科の外来待合室で患者さんや付き添いのご家族が利用する待合用ロビーチェアについて、老朽化した物を順次新しい物に更新しています。また、主に入院患者さんが多く利用する荷物運搬用カートを増やし、外来棟玄関に設置しました。



待合室のロビーチェア

「学生からのメッセージ」 学業奨励金表彰の被表彰学生からのメッセージを一部紹介します。

Message



ご寄附いただいた皆様に心より感謝申し上げます。国際資源学部での勉強は、今まで触れたことのない分野の学習がほとんどで、地質調査での野外実習は過酷であるため心身共に鍛えられます。途中で投げ出したと思うことがたくさんありましたが、今までの努力がこのように認められ、大変光栄なことでも嬉しく思います。同時に大学や地域の方々から未来を担う学生に大きな期待が寄せられていることを改めて実感します。(国際資源学部3年)



寄附をして下さっている皆様に、心より感謝申し上げます。日々の努力がこのような形で認められたことを、大変喜ばしく思っております。頂いた奨励金は、今後専門的な学修を行うために必要な学費として使わせていただきます。今回の表彰を励みとし、より一層勉学に精進いたします。(教育文化学部2年)



秋田大学みらい創造基金の関係者の皆様に心より御礼申し上げます。日々の努力がこうして表彰していただくという形で認められたことをうれしく思うと共に、これからはより一層学業に努めていこう、と身の引き締まる思いです。皆様からの寄附を大切に使い、将来社会に貢献できる医師となれるように精進を重ねて参ります。(医学部4年)

ご寄附のお願い

- ◆個人の方
一口……1,000円
- ◆法人の方
一口…10,000円

〈ご寄附の方法〉

- 振込によるご寄附
- クレジットカードによるご寄附
- 古本募金によるご寄附
- 遺贈によるご寄附

※詳細につきましては、秋田大学ホームページをご覧ください。基金事務室までお問い合わせ下さい。

古本募金をお願い

読み終わった書籍(CD・DVD等を含む)を本学の提携業者(チャリぼん)が買い取り、その売却代金をご寄附いただく「古本募金」をぜひご活用ください。5冊以上から送料無料でご指定の場所に集荷に伺います。ご希望の方は、チャリぼんホームページからお申し込み下さい。なお、一度に集荷できる古本は3箱までとさせていただきます。

※令和2年9月よりお電話での集荷申込み受付は行っておりません。ご了承下さい。



寄附者ご芳名

この基金の趣旨にご賛同、ご協力いただきました皆様へ、心より感謝申し上げます。今後とも秋田大学の教育・研究活動等に対し、格段のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

企業・団体等															
秋田県厚生農業協同組合連合会 様						医療法人久盛会 様					総合施設株式会社 様				
秋田大学有志一同 様						株式会社セロリ 様									
個人															
相原 紘一 様		市川 逸郎 様		熊谷 晃祐 様		佐々木 浩史 様		鈴木 邦彦 様		那須 和広 様		宮国 毅 様			
浅田 昌弘 様		伊藤 秀一 様		黒田 啓 様		佐藤 眞 様		高野 華澄 様		那須 和佳子 様		宮野 武義 様			
池上 俊哉 様		稲庭 千弥子 様		桑島 精一 様		佐藤 美起雄 様		高橋 邦泰 様		平林 秀光 様		目時 秀一 様			
石田 和子 様		馬越 通信 様		小林 孝 様		三戸 学 様		田澤 千寿子 様		本郷 隆二 様		吉田 誠 様			
石塚 真人 様		木口 哲也 様		齋藤 稔 様		清水 明 様		田中 康範 様		松岡 悟 様					
石山 公一 様		岸野 留美子 様		佐川 光男 様		陶 優子 様		仲澤 公司 様		松岡 一志 様					

他 匿名希望 16名様・法人様(令和3年10月~12月末入金分 五十音順)

お申し込み
お問い合わせ先

秋田大学みらい創造基金事務室 〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号 ☎018-889-3266
秋田大学みらい創造基金は、秋田大学ホームページからお申し込みいただけます。
https://www.akita-u.ac.jp/honbu/ed_fund/index.html



社会を支える、底力。
日鉄鉱業株式会社
www.nittetsu.co.jp

未来に羽ばたく テクノロジー

基幹産業をテクニカル・イノベーションで支える

三和テッキ株式会社

代表取締役社長 野島 正

本社：〒140-8669 東京都品川区南品川6-4-6
TEL 03-3474-4111 FAX 03-3474-4152